

五代目桂文枝 いちもん新聞

発行
いちもん新聞編集部
〒630-0246 生駒市西松ヶ丘8-8
「いこまのたぬき小屋」内
(有)文福らくごプロモーション
TEL・FAX 0743-73-6663
桂 文福
ホームページ 文福部屋
YouTube「たぬき小屋から福もろ亭」

令和7年9月 第130号

天猫天神繁昌亭 開席二十年目へ 文枝一門に おまかせください！

玉出はんなり亭の夢



今から19年前、六代文枝会長、三代目春団治師等がテープカット。協会員が祝う

祝

世界平和
災害復興
健康長寿
笑売繁昌



五代目文枝自宅に飾ってるまねき。



ボランティア寄席
小文枝のポスター



若手断家グランプリの
審査委員長



創作落語の横綱
六代文枝



東海地区唯一の寄席として、60年前に開席。さまざまな紆余曲折を経て「新生」として十周年記念公演10月1日～10日。十年前、木久扇師、六代文枝師、ざこば師等、東西の断家と地元芸人で大須観音を中心にお練りした。あ～ナゴヤか。



謎の落語家 ハナシカ仮面
繁昌亭の、月刊笑福亭たまの会に乱入？



名古屋場所
砂かぶりにあやしげな男



元小結阿武咲関の断髪式で
ハサミを入れる文福

○繁昌亭20周年にむけて

天満繁昌亭が九月十五日で、開席九十九年。笑福亭仁智会長らで、特別公演も大盛況。

そして、10月20日から一週間の昼席は「桂米朝、生誕百年記念ウィーク」さらに、11月3日から30日までは「桂米朝、文化勲章受賞生誕百年月間」として、上方落語協会が日替わりで出演、人間国宝米朝師匠の没後十年の節目に、師匠への感謝を胸に熱演する。

○五代目文枝一門 ビッグスリー健在！

五代目文枝が天国寄席に旅立ち20年、残された一門、結束もかく、それぞれ頑張っている。

総領弟子の六代文枝は毎年恒例、7月16日のバースデー独演会、若いころの愛称はサニー、そして82才になったので、ハニー「サニーからハニーへ」と題し、米朝師ご一門の南光師、米团治師を迎えなんばグランド花月、大入り満員、創作落語五百席をめざし、意気軒昂。

四代小文枝は、57年目だが「55周年」を機に、全国55カ所で、ボランティアの落語会を継続中。ゴールでは、能登半島地震の被災地に寄付をする。

文珍は毎年吉例、「8・8文珍デー」今年で43年間継続公演、江戸の人気者春風亭一之輔師をゲストに、満員御礼。

○「玉出はんなり亭」の夢

五代目の門弟、20人が修行した思いの街、大阪西成区の玉出。下町情緒たっぷりな人情のある所。文福は今でも毎月散髪は「ヘアーサロンスエナガ」、食事は50数年の歴史ある町中華の八宝亭、（今はない喫茶ピエロも懐かし）そして、修行中、毎日、三度ご飯を頂いた親父の家に寄り、仏だんに手を合わす、今春旅立された君枝おかあちゃんとの思いで話ももう出来ないなあ、最後まで面倒を見た次男の智之（ともちゃん）との夢…。

自宅には師匠の写真や賞状などゆかりの品がいっぱい。それらを展示して、高座を作り、小さな寄席がこの玉出に、出来たらええなあ。

師匠の芸風は、上方らしい「はんなり」と評されたので「玉出はんなり亭」五代目の孫「小きん」の修練の場とし、まずは玉出本通り商店街の方々のご協力で、商店街の事務所「玉出フォーラム」で11月17日に旗上げする。

○文鹿「いてないんだわ」一門会

昨年暮れに、三十年の嘶家稼業に区切りをつけた文福門下、二番弟子の文鹿。今は地元「奈良交通」で明るく元気に生活しているが、残された弟子、白鹿、雪鹿（鹿えもんも名前をもらったが今は文福門下）が、五代目文枝の碑が建立されている大阪谷町の高津宮内の「高津の富亭」で、「文鹿

いてなんだわ一門会」を開きおじんの文福がかわいい「孫」のため応援出演「文鹿原案、文福改作。天覧文福一門会」を演じる。

まめだの無口なためき

先日、バイト先の工場へ入る時のセキュリティカードを失くしてしまった。セキュリティカードは、バイト終わりで会社の事務所に置いて帰るのが、探しても探してもセキュリティカードは出てこない。トラックを探しても工場の中や、セキュリティカードを通す機械の下も無い。一度家に帰ったが気が気ではなく夜に工場を見に行ったがなく、あきらめて切り替えようとした次の日カードは出てきた。灯台下暗しでトラックのコンソールから出てきた。過度なカードは作らないと思った。カードを発見した時、心に福が来た。笑うカードに福来たる。

文也の分野

プロレスのハルク・ホーガンが死んだ。かつてアントニオ猪木と死闘を繰り広げ最近では脳みそまでマツチヨなイメーজ通りの狂信的トランプ支持者として共和党大会で着てたTシャツ引き裂いてたあの「イチバリン!!」のハルク・ホーガンだ。ただマスコミが連日計報を流すほど認知度高かったかなあ。いや驚きはそのパフォーマンス

より享年が71歳だったことだ。と、と、年下やないかい!!あのヒゲと筋肉に気圧されて当年年上だと思い込んだ。こうして歳を重ねていくと若くして大成した人物との彼我の違いに不遇な我が身を感じる事がままある。

私もかつては大器晩成だと言われてたのよ。けど字が違ってたわ大器じゃなくて待機、そう待機晩成…いつまで待たすねん!!待ち続ける間に歳を重ねふと気付くと今や結構な年嵩で、石破も野田も年下だし吉村や玉木や小泉に至ってはガキだ息子世代だぞ。

よく高校野球の監督が年下で愕然としたって言うが今や高野連会長さえ年下だ。ただ年齢の割に尊重も尊敬もされず、いつの間にか表舞台からこぼれ落ちトボトボと裏道を歩く忘れられた過去の人だ。影響力も存在感ももう無くなったわ。唯一10年続く大須演芸場の顔付けぐらいは有り難がられてると思っただけ違ったみたい。なんせお返しにと出番をくれた奴は過去に三人だけだ。

無邪気に「イチバリン!!」と叫ぶハルクは幸せだったろうなとイチバリンになれなかった並の嘶家からの合掌。

白鹿のはくはくしかじか

居酒屋に行くときまず出てくる、お通し。以前、ある韓国料理屋に友人と二人で行った際、お通しが韓国のり五枚だった。しょぼ！と思ったが、他の料理は美味しく満足だった。会計を済ませてレシー

トを見ると、「お通し代500×2＝1000円」。いや韓国のり一枚二百円は高すぎる！と、友人とぶつた。しばらくして、その友人と再びその店に訪れた。お通しがくる。また韓国のり…が六枚！「おい今日一枚得やで！」と、小さな喜びをかみしめながら、他の物を注文した。そして会計し、レシートを見ると、「お通し代600×2＝1200円」。「いや一枚二百円換算できっちり取ってる！」ぶつたれまくった。もう行かんぞと。あれからだいぶ経つが不思議な事に、またその店に行きたいと思う自分がある。ぶつたれに行きますか。

文喬のぶんきょうチック

八月の初旬炎天下の中、身延山は久遠寺に行った。日蓮宗の大本山である。嫁の実家が日蓮宗。僕の家は浄土真宗で日蓮さんとは全く関係がない。まあ、旅行気分付き合ってもええかなと。何かの時に同じ一門の枝女太さんにそのことを言うと「僕とこも日蓮宗なんです、一緒にお参りに行きまひよか」となって、僕とこ夫婦と枝女太さん夫婦四人で身延山へ。久遠寺の山門に着いてびっくり。ずーっと上の方まで真っ直ぐな階段が続いている。二八七段、その一段一段が高くて上りにくい。途中何か所か踊り場のようなところがあって、そこで休憩しては上り、休憩しては上りして十五分程かけてやっと上り切った。僕と嫁と枝女太さんの奥さんの三人

は大体同時に上に着いた。上から枝女太さんを覗き見ると真ん中あたりではあはあひいひい言うてる。やつとのことで上がってきた枝女太さん、死にそうな顔でベンチにへたり込んで「もう二度と久遠寺の階段は上りたくない」と呻いていた。

ひとしきり休憩して、一応お参りを済ませて裏手にまわると眼下に駐車場があつて、そこからエレベータで上まで上がれるようになっていた。それを見た枝女太さん「ああして楽しんでお参りしてもご利益ないわ、階段を一段ずつ上がらんと。」

そうかな、僕は知ってたらエレベーターで上がってるな。

枝女太の「和」のころ

「言葉」シリーズその三

前号で放送禁止用語について触れました。私が落語に興味を持ち出したのが中学二年生の終わり、昭和四十八年頃です。その後高校の落研時代に録音した当時の落語には結構禁止用語が入っておりました。

落語やから許されていたのかもわかりませんがそのまま放送されていきました。それが私が弟子入りした頃、昭和五十二年頃には完全にNGになっていました。厳しくなっただけです。

悪い言葉はとにかく無くしてしまえ。言葉さえなくなったら差別も無くなる。そんな風潮でした。そんなアホなのですが、わからんこともない。日本人は言霊信者やそ

うで、言葉や文字にすると現実のものになる。それほど言葉というものには力がある。結婚式では切れるとか別れるとかいう言葉NG。受験生の前で落ちるはNG。落語家の前でずるはNG、これはどうかわかりませんが。今から三十年ほど前には言論界で大嵐が吹き荒れました。言葉狩りという大嵐です。これはまた次回に。

文太のむかし噺 ひ・貧乏花見

(その二)

むかし

長屋の連中が

桜の宮へ

花見に行くことになった。

「水で薄めたお茶を

持っていくね。

向こうが酒盛りなら

こっちはチャカ盛りや」

長屋を

裸族のような格好で

出かけよった。

「お咲さん、

腰巻き代わりにしてた

風呂敷が

足にまといついで

往生しとるし。

俵を着とった三人娘、

こけて

道をころがとんにや。

八卦見の先生、

紙の着物が燃えとるし、

裸に墨塗つて

洋服や言うとった

ヨッさん、

汗で洋服が流れてしもたがな

大事なところに
封筒被せてた

哲さん、

風で飛ばしてしもて

二人とも警察に

引つ張つていかれよった」

(つづく)

文昇問題 その一

今年の夏も酷暑だった。この

原稿を書いている段階では、猛暑が続いている。街中ではハンディファン等、色々な冷感グッズを持った人があふれている。昔からあるのが、日傘だ。最近では、日傘をさす男性も増えてきた。登下校時に、日傘を推奨している小学校もあるみたいだ。晴雨兼用は、便利かもしれない。ちなみに、私はまだ日傘をさしたことがない。先日、自宅近くで、私よりもはるかに年配の男性とすれ違った。炎天下の中、晴雨兼用というか、傘をさしていた。ただ、その傘は、透明のビニール傘だった。本人は、涼しそうにしている。心頭滅却すれば火もまた涼し。心の持ちようで、ビニール傘でも涼しいのか。無い方が涼しいのではないか。ビニールハウスに入っているようなものではないか。早く育つのか。私は心の中で叫ぶ、「この、温室育ちが」。

「あやめの女王様とお呼び」

いやーファッションの世界は何が流行り出すかわからんもんで…。

先日、女性のお客様から綺麗な下着のスリップをいただきました。ひとつは白で端にレースのついたロング丈、もうひとつはウエストにゴムが入り下がレースの短パンみたいになったやつ。これはサイズもSやったので娘に「こんな着る？」と見せたら目を輝かせて「これ、今流行ってるヤツやん！」と言うのです。今、TシャツにGパンなどの上からこのロンパースと呼ばれる下着を着て、お股のところのボタンを外してピロンと前に垂らすのがオシヤレやと。「そんな、男の人がGパンの上からフンドシ出してるようなもんやん、おかしいやろ！」というたらスマホでモデルみたいな人がそうやって着てるのを見せてきました。わからんわーと思いな

がら私が「この白のスリップ、今度コントで着よかな」というたら「やめて！人前でそんなん、捕まるで」。そっちはオシヤレでこっちは犯罪かい！けどやめとこ。スリップだけに、すべりそう…。

坊枝の新婚日記

妻から旭区保護司会などの主催で元プロ野球阪神タイガースの掛布雅之さんの講演会が地元中学校の体育館で開催されると聞き、ジャイアンツファン、いえ大の長嶋茂雄さんファンで近隣にお住まいのJ先輩をお誘いすると「掛布さんなら」と妻と3人で掛布雅之さんの「我が野球人生」という70分を超える熱のこもった講演を聴いた。

「打とう打とうという気持ちよりも、打てなくなったらどうしよう、この怖さを知った人間は練習の鬼になる」

これを聴いたJ先輩はそのあと呑みながら「えー講演やった、忘れたらアカンな、やっぱり稽古なんや！」と、私と妻にしきりにおっしやっていた。

翌日「きのうはありがとうございまして」と電話をすると「俺、きのうどうやって帰った？」と前日のことは殆ど覚えていらつしやらなかった。

楽珍の“警備員”日記

じいじ♡大好き♡

園田競馬場で警備を終えた私は、いつもの銭湯に入ってから家に帰ります。

その日、洗い場で体を洗っているとき、私の横に3才くらいの女の子がチョコンと座ったその横にじいじがこつち向きで座る。(ああ♡可愛いな♡うちの娘もこんな時があったなあ♡)と私。

やさしく、やさしく女の子の体を洗い終えたじいじが、「今度はじいじ自分の体を洗うね」と言う。「うん、じいじ洗ってくれてありがとう♡」(2人のやりとりが、微笑ましい…)

じいじが、今度は自分の体を洗うと思いきや、おもむろに口の中に手をつっ込んで糞入れ歯を『ガバツ!!』と引き出した!!

私は正直そんなに驚きはしなかったが、これを見て3才の孫はどんな反応をするのか？ひよっ

として泣き出したり、または、「じいじ汚ない」と言っってしまったりしないか？そっちの方が心配になった。

鏡越しにじいじと注目していると、「じいじすこいー!!♡自分で自分の歯を引っこ抜いたゝすこいゝすこいゝ」と小さな手でパチパチ拍手して喜んだ。(ああ：良かったあゝ)と私はホッとしたが、女の子はこの後すごい事を言った。

「ねえねえじいじ、今度は目玉も引っこ抜いてゝ!!」

湯船に浸ってのおじさんも、他の洗い場の人も、私も風呂場中が大爆笑に包まれた。

今度の落語会は「犬の目」を演ろうかな?と思った。

「枝曾丸のつれもてい」

和歌山県の夏といえば、海と山。そして茶粥です。

子供の頃から、ほうじ茶で作ったお粥を鍋ごと冷蔵庫に入れて、小腹が空いたら食べる。お隣奈良県の紀の川沿いは同じと思うわが町では、珍しくない光景です。この時期、県内の落語会では、お弁当じゃなくて土地のおばちゃん手作りのこの茶粥を鍋ごと、ドーンと茶屋に置いてある事もあります。昔は、大阪から先輩に来て貰った時は、恥ずかしかったもの。しかし反面その先輩たちは喜んで「珍しいなあ」と言っただけで食べていました。「よう来てくれたなあ」と大阪で買うと高価な果物やお魚を惜しげもなく持たせてく

れる事もある。これも我故郷の気前の良いところかも。昨今はパンダがいなくなつて賑わいを危惧されている和歌山ですが、昔ながらの素朴なおもてなしも大きな観光資源です。そして僕の和歌山弁落語も！みなさん今こそ和歌山です。

ぼんぼ娘ピーのポンポコナー

歳を重ねると、味覚がかわってくる。若い頃程量を食べられないせいか、こつてりしたものより、あつさりしたものが、よりおいしく感じる。昔なら焼肉とお寿司なら、断然焼肉派だったが、今はどちらかというと、お寿司のほうが食べたと思う回数が増えてきた。ただ、歳を重ねてから美味しいと思うもののほど、価格の高いものが多く、物価高もあいまって、なかなか自分が美味しいと思うものを、お腹いっぱい食べられる機会が減つて来た気がする。本当に悲しい。その点うちの師匠は素晴らしい。そろそろ73才になろうとは思えない程、安い居酒屋が大好きで、少し傷んでいようが安ければお構いなし。味付が濃くてカロリーが高いものは、だいたい美味しいというし、一品三百円以下だと、より美味しいと言う。値段が安ければ安い程、満足感とテンションが高くなる。8月の「文福一門夏の集い」でも「飲み放題無制限」のお店で約5時間、安酒をガブガブ飲んでた。本当に素晴らしい師匠だ。ただ修行の足りない私は、コスパより師匠のいない飲み会に、満足感を高く感じる。

文福の ой やんストーリー

最近、セクハラ、パワハラ、モラハラなどハラハラしますなあゝ。繁昌亭や喜楽館の寄席がはねた後、若手をむりやり飲みにさそつたらパワハラ。女流落語も増えて、若い女性に「おまえ、最近、べつぴんになったなあゝ」なんてセクハラ。先日、ギャル(古いなあゝ)の女流落語家の名前、言うたとたん「セクハラ」つて、ぼんぼ娘にしかられた、トホホ。

私は54年目の噺家ですが、修行中をふり返ると、すごい時代：、今や上方落語界、三百人近くおりますが、当時は会長の松鶴師匠「50人にするのが夢のまた夢」とおっしゃってた頃。上方の噺家は、吉本系は花月劇場、松竹系は道頓堀角座等で、漫才や音楽ショー、新喜劇の間で孤軍奮闘。53年前、小米改め枝雀、光鶴改め枝鶴、小春改め福田治の三人襲名(松竹系)仁鶴、可朝、三枝のメディア人気(吉本系)等で空前の上方落語ブーム。五日間だけでしたが、毎月の定席、大阪ミナミで「島之内寄席」、神戸の「柳笑亭」二日間ですが「千里繁昌亭」と協会の寄席が出来、我々が楽屋番、舞台番(江戸の見習い、前座同様)として修業。地域寄席も東大阪の「岩田寄席」大阪市内の「田辺寄席」、和歌山の「紀の川寄席」等各地に出来。熱気ムンムン。「島之内」の楽屋など、毎晩差し入れのお酒、辛口の一升瓶がズラリ。松鶴師匠は「噺家たる者、今日もろた酒は、今日中に、

よばれんと、失礼やー」んなアホな!!「おい!いにたかつたら(帰)りたかつたら、この一升瓶、全部あけよ」て、今ならパワハラ、アルハラやゝ。「師匠、私、小文枝(後の五代目文枝)の家にもう帰らなあきませんねん」「おい、文福!!小文枝と松鶴どっちがえらい思てんねん」ヒェうちううだします。

けど米朝師、春団治師、五郎師(後の五郎兵衛)松之助師らの昔話をさかんに飲ましてもろたこと今ではええ財産やなあゝ。今は芸人相手に「コンプライアンス研修会」が開かれる時代、若手には、ネット、SNS等注意炎上問題等、ベテランは反社のいわゆるやくざ屋さんの闇営業等。パブルの頃古い芸人さんに親分が「今夜、内のスナックで芸してもりあげてくれたらこれだけやるわ」と片手を出したら、「はつ四万五千円でつか」「アホ!!五万じゃ」

て小指が半分、そんなことは日常茶飯事でした。今やから云うけど、40数年前、ある芸能社から兵庫のある街のラウンジへ。若手女性漫才師と私で一時間のステージ。この街はヤーさんがちらほらおるから気にせんと演つて下さい」と担当者。いざそのラウンジに行つたら50人全員が、その道の人々。若手は二分でおきて来たので私一人で一時間!!「兄ちゃん、おもしろいなあゝ気に入ったわ」そんなこんなであとは、いやあのその：

今でも飲み屋さんでそれらしきお客が、「師匠!!前からファンや!!一緒に飲も!!」こんな時、神

経使いまっせーこれが、ほんまの「ハンシャ シンケイ」

編集後記

いつも、当新聞をご愛読ありがとうございます。ご愛読ありがとうございます。

さて、日本はもう四季おまへんなあゝ、秋はどこいったて、猛暑のりこえ、おつかれ様でしたが、まだまだご自愛ください。この号は年末まで、各地で、おめ通りいたします。

さていろんな情報発信がありますが、私めも毎(火)ユーチューブ配信、この新聞出来る頃は三百十回の配信になります。配信の方が、再生回数より多いでんな、あほな、落語界、大相撲界、昭和歌謡など、又、チャネル登録よろしゅう頼みます。そんな中、いろんな楽屋囃もありまして：。うちのぼんぼ娘は私のもとに来て来年度20年になります。その前は東京太、ゆめ子師匠の弟子として八年間、修行してきました。十年前に繁昌亭での「ぼんぼ娘W師匠に感謝の会」で、京太・ゆめ子師匠に出て頂き「かあちゃん、帰ろうよ」と味のある夫婦漫才で大爆笑、来年度の「ぼんぼ娘二十周年」にも来て頂くと思つていました。が、ゆめ子師匠は天国寄席に旅立たれました。ごめい福を念じあげまして：合掌。

京太師匠、お力落としのなきようご長寿祈ります。皆さんも、ますます健康長寿めざしましょう。

(文福)